



# 三事研広報 No.4

H23.12.7 発行

三重県公立小中学校事務研究会

発行者 釜須 雅子  
編集責任者 川北 剛

年内も残り少なくなって参りました。この一年はどんな年だったのでしょうか。さて、今回の広報は、10月に行われました、第48回三重県公立小中学校事務研究大会の概要をまとめました。

## 第48回三重県公立小中学校事務研究大会

10月21日（金）三重県総合文化センターにおいて「教育活動の活性化に向けた学校事務の実現」を大会テーマに、第48回三重県公立小中学校事務研究大会兼50周年記念大会が行われました。ご参加いただいた会員のみなさまにおかれましては、誠にありがとうございました。



釜須会長

### 支部発表 津支部「描こう！ OUR デザイン♪」 — 新たな役割を考える —



事務職員の30年後の将来像を考えるというテーマのもとで、まず現在抱えている課題について経験年数別に現状把握した結果が報告されました。続いて、津支部研究推進委員のメンバーが考えた30年後の未来像を会場の意見を交えながら提案がなされました。

まとめとして、私たちが将来のデザインを描き、実現していくためには、事務職員として求められている力量を高め、私たち自身の意識を改革し、事務職員の職務や存在に対する周囲の理解を得ることが求められているということで、改めて自分のキャリア形成を考えるよい機会となりました。（津支部）

### 基調提案 三重県公立小中学校事務研究会 研究部 — 教育活動活性化計画について —

研究部からは、三重県公立小中学校創立50周年の記念大会として県事研50年の研究活動の歴史を振り返りながら、現在の第6期中期研修計画の研究内容（昨年度提案された「教育活動活性化計画」や今年度提案予定の具体的行動策）について提案しました。当日の基調提案概要は次の通りです。

三重県公立事務研究会が昭和36年に設立されました。今年で設立50周年の節目を迎えました。研究会設立後は実務研究発表会、4年に1回程度の東海大会、平成13年度には全国大会が開催されるなど、常に時代とともに研究活動を行ってきました。

三事研では平成元年度から、三事研での研修の一貫性、系統性を持たせるために中期研修計画を立案し、第1期、第2期、第3期、第4期、第5期と続き、現在は、研修主題を「教育活動の活性化に向けた学校事務の実現」とした第6期中期研修計画（平成21年度～平成25年度）の3年目となります。

第5期中期研修計画（研修主題「子どもの育ちを支援する学校事務」）で事務職員個々の資質向上に取り組み、成果をあげてきました。しかし、いくら個々が高い能力を持っていてもそれだけでは成果が発揮されず、事務職員自らが、組織をつなぎ、組織を活性化する働きかけや仕組みを工夫し、提案して行くことによって、自らの持つ能力も有効に発揮することができるのではないかと考えました。第6期では第5期の成果を踏まえつつ、学校組織における学校事務の機能に注目した研修計画としました。



第6期中期研修計画の一年次である平成21年度は、「私たちは本来の力を発揮できているか」をテーマにおきました。私たち事務職員が学校の目標達成に教職員と協働するためには、教育活動への理解と事務職員の職務を通じた参画が必要であることがわかりました。そして、共同実施は、事務職員と学校の事務機能を強化する、「個から組織へ」「人材育成」「地域をつなぐ」役割があると考えました。

平成22年度は、第6期中期研修計画の二年次であり、「学校事務の教育活動への関わり」をテーマにおきました。教育活動の中心である“授業を観る”という一つの手段をきっかけに私たち事務職員が授業づくりのために何ができるのか意見交換を行うことで、学校現場の課題の把握をすることにつながりました。また、「教育活動活性化計画」の策定にも取り組み、12月研修講座でその案を提案しました。

「教育活動活性化計画」の中で、新学習指導要領でうたわれている「生きる力をはぐくむ」という理念を、三事研研究部「子どもの豊かな育ちを実現する」と表現しています。この「子どもの豊かな育ちを実現する」という目的にむかって、学校は何をすべきかと考えた時に、「学校教育目標の実現」「安心して学校生活を送れる環境づくり」「信頼される開かれた学校づくり」の目標があり、これらの目標が達成された状態を「学校教育活動が活性化された状態」と考えました。三事研役員にとったアンケートの結果、「学校における教育活動」と「学校事務」はさまざまな関わりがあり、これらの関わりは、複数の教育活動のところに共通してみられ、これらを整理してみると、「情報」「財務」「安全」の3つの領域に分類することができました。そこで、三事研研究部では、事務職員として「情報」「財務」「安全」という3つを柱にして教育活動に関わっていこうと考えました。教育活動の活性化に向けて、事務職員が何をしていったらよいのか。それはなにか特別に新しいことをはじめるというよりは、従来からやっていることを整理し、つながりよく丁寧にしっかりとやっていく、学校組織のなかでその力を十分に発揮していくことであると考えました。そこで、大切になってくる「学校を元気にする」という視点、すなわち「教育活動の活性化」に向けて大切にしたい視点について、「協働体制の構築」「資源の充実と活用」「資質向上・人材育成」「危機管理体制の徹底」の4つを考えてみました。「学校組織全体がうまく回っていくためには、この4つの視点が大切だ」と考えました。この4つの視点を大切に、教育活動に関わることが、教育活動が活性化された状態にすることにつながり、そして「子どもの豊かな育ちを実現していく」ことにもつながっていくと考えました。

学校組織全体として大切にしたい4つの視点（協働体制の構築、資源の充実と活用、資質向上人材育成、危機管理体制の徹底）と学校事務を遂行する上で事務職員が大切にしたい領域として「情報」「財務」「安全」これらを3つの柱として、事務職員側の視点で作成した「教育活動活性化計画」のイメージ図を提案しました。「教育活動活性化計画」の理念（事務職員が、学校の中で「役割を自任」し、地域や関係機関とともに「方向性を共有し、相互に繁密に協働・連携して」子どもの成長に関わっていくこと）は、平成23年3月、三重県教育委員会が策定した三重県教育ビジョンの理念と合致しています。

今年度は平成21年度・22年度の研究を踏まえて、主題実現に向けてのテーマを「協働について考える」としました。現在策定を目指している『教育活動活性化計画』の中で、“学校が活性化された状態”として示した「学校教育目標の実現」「安心して学校生活を送れる環境づくり」「信頼される開かれた学校づくり」の達成に向けて、「協働」とはどのようなことなのか考えながら、つながりあう学校組織のための学校事務の機能について検証しています。

その取り組みの1つとして、三事研役員・支部委員の所属校25校470名（アンケート総数614名、回収率76.5%）の教職員からアンケートをとりました。アンケート項目は、事務職員側が考えた3つの柱に沿った53項目と3記述項目です。その結果、「教育活動が活性化される」ためには、

- ① 学校として教職員全体が大切にしていること、
- ② 事務職員として大切にしていること、
- ③ 時代の流れとして学校に要求されていること
- ④ 学校として大切であると認識されながらも実践できていないこと
- ⑤ 事務職員としてより主体的に取り組まなければいけないこともある

の5種類に分けることができました。それらの中から「協働」への足がかりとなる項目について研究部が選び出し、イメージ図に照らし合わせながら説明しました。教育活動の活性化とは、特別に新しいことを始めるというより、従来からやっていることを整理して、つながり丁寧にしっかりとやっていき、学校組織中で力を十分に発揮していくことであることを再確認しました。そして、午後のシンポジウムを聴く中で、会員一人ひとりが「協働」について考えてみよう」と提案をしました。

12月研修講座にて具体的行動策（案）を提案、来年度以降は、提示した実践例を実践（県内各地からの実践交流を取り入れながら）する中でさらに検証しながら、平成25年度には三事研としての「具体的行動案」を策定します。（研究部 野村）



## シンポジウム

### 第1部 ー 三重県に関わっていただいた講師の方々から未来への提言 ー



三重県事務研究会が「子どもの豊かな育ちを実現するために」具体的な行動として「情報」「財務」「安全」という3つの柱にして教育活動に関わっていくために、事務職員が果たすべき役割やどんな行動が出来るのか、どんなアプローチが出来るのか、3名のシンポジスト及びコーディネーターの方からご助言いただきました。

長谷川先生からは「情報」を他者と連携してマネジメントしていくコミュニケーション能力について、藤原先生からは法令の知識や財政的な視点など事務職員独自の切り口を生かすことについて、木岡先生からは危機管理の視点から未来完了形の学校経営とミドルアップダウンの重要性について、織田先生は全体を総括して、人や組織の強みを引き出して伸ばしていく AI (Appreciative Inquiry) という考え方について、それぞれ短い講義をしていただきました。(川北)

## シンポジウム

### 第2部 ー つなげよう学校事務 ー



第2部は、第1部の3つの柱を実行するにあたって学校組織全体として大切にしたい、「協働体制の構築」「資源の充実・活用」「資質向上・人材育成」「危機管理体制の徹底」という4つの視点に焦点をあててご意見をいただきました。

まず、「協働体制の構築」をするためには、学校が組織として力を発揮していけるような総合的なマネジメント力が強化される体制を整備することや、本務校の学校経営案に対して当事者意識と課題意識を持つこと、協働する側の視点を持ち相互理解を深めることなどが必要である。

2つ目の「資源の充実・活用」を図るために事務職員がどのように関わっていくべきかについては、教員と子どもたち、保護者の眩きにアンテナを高くしておき、新聞やいろいろな雑誌、地域の人から話を聞いた中から職員に提案していくことや、事務職員が予算委員会を通じて、ヒト・モノ・カネ・時間・情報をコーディネートしていくことが必要である。

3つ目の「資質向上・人材育成」についての課題は、事務職員として、教員や子どもたちに対する客観的な立場や視点を持っていることを自覚し、その自己認識のもとで日々の課題に対峙していく必要がある。

4つ目は、学校に対する信頼を守るための体制づくり、教育活動を進めるうえで、押さえるべき観点としての「危機管理体制の徹底」について、事務職員としてできることは、日常的に危機管理を意識し、学校として心地よい

緊張感を形成するための環境整備や、当事者意識を持って、危機管理についての情報提供や、法規研修、施設設備や校区の点検を日常的に行うことが必要である。

最後に、今後の事務職員に期待することは、事務の共同実施を、事務の効率化、学校事務部門の強化策として進められてきたが、さらに求められる機能として地区学校事務室の機能、地区協働の要として役割を担う。そして学校のトータルプロデュースを行っていく一員として、事務室から教員へのポジティブアプローチによって、学校を元気にしてほしいという意見や、何のために仕事をしているのかをはっきりと語れることが必要であり、その目標が午前の基調提案の中の教育活動活性化計画であるという意見、これからも事務職員ならではの強み・真価とは何かを探求し続けていくことが重要であるというような意見など、多くのご意見をいただきました。(川北)

## 第3回研修講座

## ご案内

12月9日(金) 受付開始 13:15~ (終了予定 16:30)  
三重県総合文化センター 多目的ホール

内容 講演を含む県内各地の実践発表など3講座の予定

## ひろばの発刊について

ひろばへのご投稿ありがとうございました。